

二〇一〇年度

大学入学式式辞(要約)

院長代行 半田正夫

皆さん、青山学院大学へのご入学おめでとうございます。青山学院を代表して皆さんのご入学を祝福し、ここから歓迎申し上げます。

本学の特徴は、キリスト教信仰に基づく教育をその基本理念としているところにあります。本学のスクール・モットーは「地の塩、世の光」です。愛と奉仕の精神で社会と人類に尽くす人材を養成することにありと考えられます。この趣旨に沿って本学を築立った数多くの先輩たちが世界中のいたるところで活躍を続けておられます。

私は、北海道の大学を振り出しに、いくつかの大学の教壇に立ち、縁あって1971年に本学に赴任し、以来40年近くの時間が経過するにいたっております。赴任前および赴任当時に抱いていた本学に対するイメージはいまもお裏切られることなく続いております。本学の特徴は、さきに述べたように、キリスト教信仰に基づく教育を建学の精神としていることに

ありますが、そのほかにもいくつかの特徴を挙げる事ができます。

まず第一に、本学の教員の間には学閥がないことです。大手の大学の中には、自分のところの出身で教員を固めてしまうところがありますが、このような閉鎖的な社会では研究の活性化が失われがちとなる傾向があります。これに引き換え本学では、出身校に関係なく全国から人材が集まってきて、互いに切磋琢磨して研究を競い合っており、国際的に評価されるすぐれた業績が数多く出ていることは学会周知のところでは

第二に、教員と学生の関係がき



わめて緊密であるということです。本学ではゼミの希望者のほとんど全員がどこかに所属できるように配慮し、通常の講義のような教授からの一方通行による授業によって学生の受ける疎外感を排除するように努めております。また本学の独自の制度としてアドバイザー・グループ(一般にアドグレルという)という制度があります。これは学部のかんに関係なく、ある特定の教授のもとに集まって勉強や共通の趣味を楽しむというものです。これに参加して大学生活をより豊かな幅広いものにしていくことをお勧めしたいと思います。

第三に、本学の学生の明るい気質を挙げることができます。他校の学生に比べると本学の学生は、際立って明るくのびのびしており、しかも穏やかで礼儀正しいということを実感しています。明るくのびのびしているというのは青山という土地柄がそうさせるのか、そして穏やかで礼儀正しいというのはキリスト教の信仰に基づく教育理念が自然と学生に浸透しているためなのかは分かりませんが、明らかに他校の学生とは違った雰囲気を持っていることだけは確かです。このことは本学を卒業して企業に就職した際にはつきりと現れ

てくるものとみえ、どの企業からも好感をもって迎えられていることから明らかといえましょう。

式次第の最後のページをご覧ください。ここに「学生時代」の歌詞が載っております。この歌は本学出身の平岡精二が作詞・作曲し、これもやはり本学出身のペギー葉山が歌ったことでお分かりのように、本学をイメージして作られたもので、当時この歌は青山学院大学の第二校歌とまでいわれたものです。この末尾は次のようなフレーズでくくられております。

「テニスコート

キャンプファイヤー

なつかしい日々は帰らず

素晴らしいあの頃 学生時代

素晴らしいあの頃 学生時代

どうか、卒業して何年か経って過去を振り返るときがきたならば、あの青山学院大学での4年間が一番素晴らしいかと懐かしく思い出す、そのような時期をこれから送っていただきたいと思うものです。

皆さんの大学生活に幸あれと心から願いつつ、私の式辞といたします。ご入学本当におめでとうございます。